

# 熊取町遺跡群発掘調査報告書・XVIII

平成16年3月

熊取町教育委員会

## はしがき

古代から熊取野とよばれた本町城は現在まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に埋蔵文化財包蔵地として44ヵ所を数える遺跡があるなど、町内全域に遺構や遺物が埋蔵されています。

熊取町では昭和60年度から国庫等補助金を受けて発掘調査を実施するようになり、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成15年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したものです。今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成16年3月

熊取町教育委員会  
教育長 甲田義輝

## 例　　言

1. 本書は、平成15年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川 淳を担当者として、平成15年4月1日に着手し、平成16年3月31日をもって終了した。  
確認調査では、調査区を写真撮影し、調査区位置図（平面図）、調査区壁面図を作成し記録にとどめた。また記録作業後は必ず埋め戻して現場作業を完了した。
3. 本書は、報告書の作成の都合上、平成15年4月1日から平成15年12月29日までの発掘調査成果及び、平成14年度事業で昨年「熊取町埋蔵文化財調査報告第40集」で報告できなかった平成15年1月5日から同年3月31日までの発掘調査成果（3件）を掲載する。
4. 本書における図面の標高は、T.P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査員・調査補助員の参加を得た。  
関井澄子、永橋祥行、前田公子、森田亨子、山本恵子
7. 本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川淳が行った。

## 目 次

第1章 はじめに .....	1
第2章 地理的環境と周知の遺跡	
第1節 地理的環境 .....	1
第2節 歴史的環境 .....	2
第3節 周知の遺跡 .....	3
第3章 調査成果の概要	
第1節 野田遺跡02-11区の調査 .....	6
第2節 野田遺跡03-1区の調査 .....	7
第3節 野田遺跡03-2区の調査 .....	7
第4節 野田遺跡03-3区の調査 .....	8
第5節 野田遺跡03-7区の調査 .....	9
第6節 七山東遺跡02-2区の調査 .....	11
第7節 降井家屋敷跡02-1区の調査 .....	12
第8節 降井家屋敷跡03-1区の調査 .....	13
第9節 久保城跡03-1区の調査 .....	15
第10節 久保城跡03-1区の調査 .....	16
第11節 山ノ下城跡03-1区の調査 .....	17
第12節 口無池遺跡03-1区の調査 .....	18
第4章 まとめ .....	20

第1章 はじめに

平成15年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は 30件（平成15年12月29日現在）であり、昨年の同時期は 32件であった。

本書では平成15年度12月29日までに国庫補助事業として実施した野田遺跡をはじめとする町内遺跡の調査9件、平成14年度事業で実施した野田遺跡他2件を合せた12件の発掘調査の成果について概要を報告する。

平成15年度 国庫補助事業発掘調査一覧表

遺跡名	所在地	申請者名	申請面積	調査年月日
野田遺跡02-11区	野田二丁目2403-1	藤原フクエ	241.92m <sup>2</sup>	2003 030130
野田遺跡03-1区	野田二丁目2418	櫻井一郎	418.82m <sup>2</sup>	2003 030403
野田遺跡03-2区	紺屋一丁目5-19	中西裕章	368.71m <sup>2</sup>	2003 030529
野田遺跡03-3区	紺屋一丁目195	辻村易也	439.18m <sup>2</sup>	2003 030621
野田遺跡03-7区	野田二丁目2373	都志修造	1,010.14m <sup>2</sup>	2003 030918
七山東遺跡02-2区	自由が丘二丁目543-43	裕畠幸夫・宣子	199.59m <sup>2</sup>	2003 030224
降井家屋敷跡02-1区	大久保中二丁目4	松藤次郎	115.92m <sup>2</sup>	2003 030317
降井家屋敷跡03-1区	大久保中二丁目2155-1	降井正仁・節子	370.32m <sup>2</sup>	2003 030514
久保城跡03-1区	久保一丁目1605-1	宮内健二	427.48m <sup>2</sup>	2003 030414
久保城跡03-2区	大宮一丁目1567-3他2筆	田宮猛弘	188.94m <sup>2</sup>	2003 030917
山ノ下城跡03-1区	朝代西三丁目755の一部他3筆	明貝大輔	385.52m <sup>2</sup>	2003 030724
口無池遺跡03-1区	紺屋一丁目159-2	清原一広	126.30m <sup>2</sup>	2003 030826

## 第2章 地理的環境と周知の遺跡

第1節 地理的環境



熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.19km<sup>2</sup>を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に

水源を持つ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の4水系が存在している。いざれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑用の溜め池を目にすることが出来る。

## 第2節 歴史的環境

これまで東円寺跡としていた約300,000m<sup>2</sup>の広大な範囲を寺院遺跡の東円寺跡と集落遺跡の野田遺跡に分割した。これまでの調査成果から熊取町役場前の約45,000m<sup>2</sup>には明らかに古代から中近世の寺院遺跡に関する資料が検出され、その周辺の地域とは区別できる。寺院の周辺には奈良期から中世の集落遺跡が検出できるのでこの地区の名前を探って野田遺跡と分割したものである。遺跡数は平成15年12月現在で41ヵ所を数えるようになっている。

**縄文時代**以前の遺構は発見されていないが、野田遺跡の所在する熊取町野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器と石鏃が検出されている。

**弥生時代**の遺跡も発見されていない。JR熊取駅のある大久保における駅前整備事業に伴う平成元年の発掘調査では畿内第V様式を示す土器が大量に検出され大久保E遺跡となつたが、その土器は古墳時代初頭の所産と考えられている。

**古墳時代**の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、既に開発で消滅している。

**飛鳥時代**については、平成10年度の久保城跡98-1区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥V様式といわれる土師器や須恵器を検出している。

**奈良時代**についてはこれまで東円寺跡87-1区(現:野田遺跡87-1区)の調査で建物4棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、10年度に久保で須恵器杯や製塩上器等の土師器を含む3本の溝群、平成11年7月熊取町七山(七山東遺跡)で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が相次いで検出された。また小堀内においては、平成13年度の試掘調査で中世の土器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全域は奈良時代には本格的に開発されていたものと考えられる。

**平安時代**については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成8年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

**鎌倉時代**以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。野田の野田遺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡では瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。平成13年度には小堀内で幅10m程の溝跡(濠)が見つかり、第42番目の「小堀内西遺跡」となった。

**戦国時代**については和田の重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の16世紀の土師器皿や瓦片が出土した。

**江戸時代**の特異な遺跡としては、五門の重要文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要文化財降井家の降井家屋敷跡がある。平成13年度の中家住宅東側隣接地での調査では、実に5,500破片の土師器皿や軒丸瓦片が出土した。

### 第3節 周知の遺跡

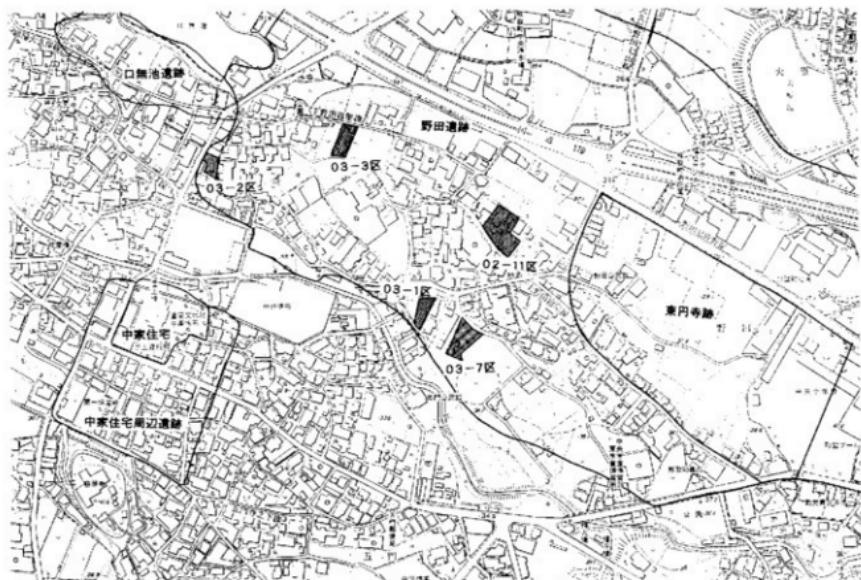
周 知 の 遺 跡 一 覧 表

番号	遺 跡 名	種 類	時 代	地 目	立 地	面 積	主 な 成 果 等
1	降井家書院	建造物	室町～江戸	宅地	平 地	4,000m <sup>2</sup>	国指定重要文化財
2	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平 地	4,500m <sup>2</sup>	重文・江戸期から明治頃の陶磁器・土師器等出土
3	来迎寺本堂	寺 院	鎌倉	倉	宅地	丘陵腹	3,100m <sup>2</sup>
4	池ノ谷遺跡	散布地	旧 石 器	水田	平 地	62,300m <sup>2</sup>	
5	甲田家住宅	建造物	江 戸	宅地	平 地	5,000m <sup>2</sup>	
6	東円寺跡	寺院跡	平安～江戸	宅地	平 地	48,000m <sup>2</sup>	瓦・土器多数出土、寺院の形態は不明
7	城ノ下遺跡	城郭跡	室 町	宅地	丘 陵	61,800m <sup>2</sup>	
8	成合寺遺跡	墓 地	室 町	烟地	丘陵腹	69,000m <sup>2</sup>	14世紀代の600基以上の土壇墓群等検出
9	高藏寺城跡	城郭跡	室 町	山林	山 頂	34,800m <sup>2</sup>	土塁・堀切等の遺構を確認する
10	兩山城跡	城郭跡	鎌倉	倉	山 林	山 頂	45,300m <sup>2</sup>
11	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘 陵	2,300m <sup>2</sup>	土師器片等が検出される
12	五門北古墳	古 墳	古 墳	宅地	丘 陵	1,900m <sup>2</sup>	現在消滅
13	五門古墳	古 墳	古 墳	宅地	丘 陵	1,500m <sup>2</sup>	現在消滅
14	大浦中世墓地	墓 地	室 町	墓地	平 地	18,400m <sup>2</sup>	享徳四年(1445)銘の五輪塔地輪等出土
15	久保城跡	城郭跡	鎌倉	倉	水田	平 地	86,300m <sup>2</sup>
16	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	倉	宅地	平 地	6,800m <sup>2</sup>
17	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平 地	51,400m <sup>2</sup>	
18	祭礼御旅所跡	祭礼跡	室 町	山林	丘 陵	6,300m <sup>2</sup>	五門・紺屋共同墓地
19	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	倉	宅地	丘 陵	55,000m <sup>2</sup>
20	小垣内遺跡	寺院跡	江 戸	道路	丘 陵	7,000m <sup>2</sup>	毘沙門堂跡、現在消滅
21	金剛法寺跡	城郭跡	室 町	宅地	平 地	5,100m <sup>2</sup>	大森神社神宮寺
22	鳥羽殿坂跡	城郭跡	室 町	山林	丘 陵	72,600m <sup>2</sup>	
23	幕ノ谷遺跡	寺院跡	室 町	山林	丘陵腹	32,000m <sup>2</sup>	
24	花成寺跡	寺院跡	室 町	山林	丘 陵	28,000m <sup>2</sup>	
25	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平 地	12,000m <sup>2</sup>	屋敷地を区画する溝や近世の陶磁器等出土
26	大久保A遺跡	散布地	江 戸	宅地	平 地	8,100m <sup>2</sup>	
27	下高田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平 地	57,000m <sup>2</sup>	
28	大久保B遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平 地	47,800m <sup>2</sup>	弥生末～古墳初期の遺物
29	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平 地	22,400m <sup>2</sup>	奈良～平安期の河川跡検出
30	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田 谷		129,600m <sup>2</sup>	
31	大久保C遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平 地	4,500m <sup>2</sup>	
32	千石堀城跡	城郭跡	室 町	山林	丘 陵	1,000m <sup>2</sup>	天正年間(1573～92)の雜賀衆徒の城跡
33	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平 地	11,200m <sup>2</sup>	平安末～鎌倉初期の遺構、遺物
34	大久保D遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平 地	9,200m <sup>2</sup>	
35	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平 地	4,900m <sup>2</sup>	13～14世紀の瓦器等検出
36	久保A遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平 地	4,400m <sup>2</sup>	建物跡、8～14世紀の土器
37	大久保E遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平 地	2,900m <sup>2</sup>	弥生末～古墳初期の遺物多数
38	久保B遺跡	集落跡	鎌倉～江戸	宅地	平 地	5,000m <sup>2</sup>	13～14世紀の瓦器等検出
39	中家住宅跡	集落跡	室町～江戸	宅地	平 地	21,300m <sup>2</sup>	近世の陶磁器多数
40	朝代北遺跡	散布地	鎌倉～室町	宅地	平 地	60,000m <sup>2</sup>	13～14世紀の瓦器等検出
41	七山東遺跡	散布地	奈良～室町	田	平 地	80,000m <sup>2</sup>	古代須恵器・土師器・瓦器等検出
42	小垣内西遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平 地	3,600m <sup>2</sup>	古代須恵器・瓦器・瓦等検出
43	大久保F遺跡	集落跡	弥生～室町	宅地	平 地	1,436m <sup>2</sup>	石鐵・平安頃の建物等検出
44	野田遺跡	集落跡	縄文～江戸	宅地	平 地	250,000m <sup>2</sup>	縄文石器・古代～近世の集落

熊取町遺跡分布図



### 第3章 調査成果の概要



#### 野田遺跡について

野田遺跡は熊取町役場周辺一帯の約250,000m<sup>2</sup>にも及ぶ集落遺跡である。この範囲はこれまで遺跡名「東円寺跡」としていたが、平成15年11月にこの遺跡の南西端に僅かに外れて存在する旧中林綿布工場跡地における公園造成工事に伴って試掘調査を実施した際、新たに奈良期の遺構・遺物が発見された。同様に遺跡の範囲内では奈良期の集落にかかる埋蔵文化財が確認される例も多く、平安末期に創建されたとされる東円寺跡の寺院遺跡の性格からの遊離が顕著になった。また東円寺(東蘿寺)と呼ばれる平安末以降の寺院に伴う特殊な軒丸瓦などの埋蔵文化財は、これまでの調査結果などから熊取町役場前の約45,000m<sup>2</sup>の地域に限定できると考えられる。平成15年11月新しく「野田遺跡」の名称をもつて旧「東円寺跡」を改称し集落遺跡とし、別にその中心地域に寺院遺跡の「東円寺跡」を抽出したのである。野田遺跡の範囲内では中央小学校で縄文時代早期の石鏃が出上した他、現代の野田集落内の住宅調査では奈良期の掘立柱建物群や須恵器などを検出し、野田遺跡の集落が奈良時代から開かれていたことがわかっているが、調査の成果からは中世初期頃になつて集落が最も繁栄していることがわかっている。集落は室町時代の中期頃より衰微したこととも窺え、多くが農地に変わったものと考えられる。

東円寺(東蘿寺)は現在跡形もなくなってしまっている。16世紀に著述されたとされる「葛城峯中記」には「野田山…」の記述が見られる。寺院は平安時代末頃に創建され、中世～近世を通じて存続したもの明治維新の廃仏毀釈で完全に法燈が絶えたものとされている。

江戸時代に著述された「先代考拠略」によれば、東円寺はかつて「東耀寺(トヨカジ)」と呼称されていたとされる。中世の東耀寺は豊臣秀吉の来襲で完全に焼亡したとされるが、江戸時代に入って再建され「東円寺(トヨエジ)」と呼称されるようになったという。

複弁蓮華文軒丸瓦や均等唐草文軒平瓦は熊取町指定文化財に指定されている。

## 第1節 野田遺跡02-11区の調査

調査地 野田二丁目2403-1

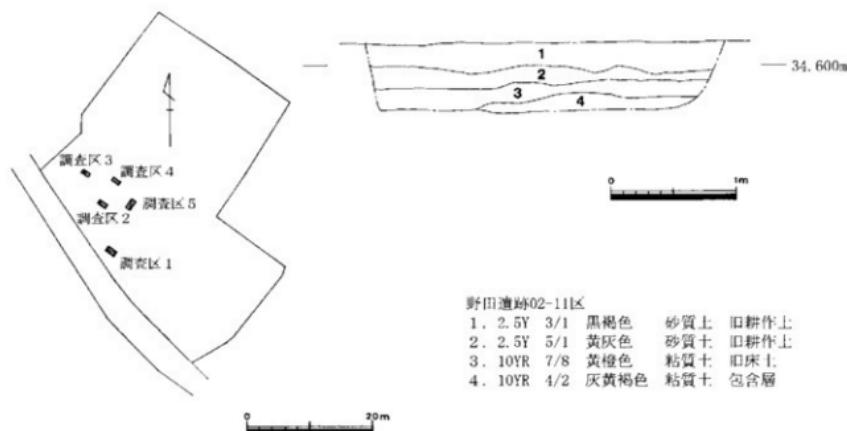
調査期間 平成15年1月30日

### 位置と環境

申請地は野田遺跡の中央付近野田集落の只中に位置し、周辺は外環状線方向から南へ向かって緩やかに下って地形を呈している。周辺ではこれまで本調査を実施した経緯は存在しないが、広く中世包含層が分布することが知られている。

### 調査内容

調査区を設定して機械掘削によって実施した。上から旧耕作土が2枚①②とその床土③、中世の所産と思われる層④(砂質土: 遺物無し)の順だった。



### 小結

申請地は後世の攪拌を免れており、④層のような中世の砂質土層も残存していた。残念ながら土器や遺構は全く残存していない。中世期には集落の外側の耕作地域だった可能性が考えられる。④層は住宅基礎工事で届くだろうが、調査で遺物は検出することができなく、包含率の極めて低い層と判断する。

## 第2節 野田遺跡03-1区の調査

調査地 野田二丁目2418

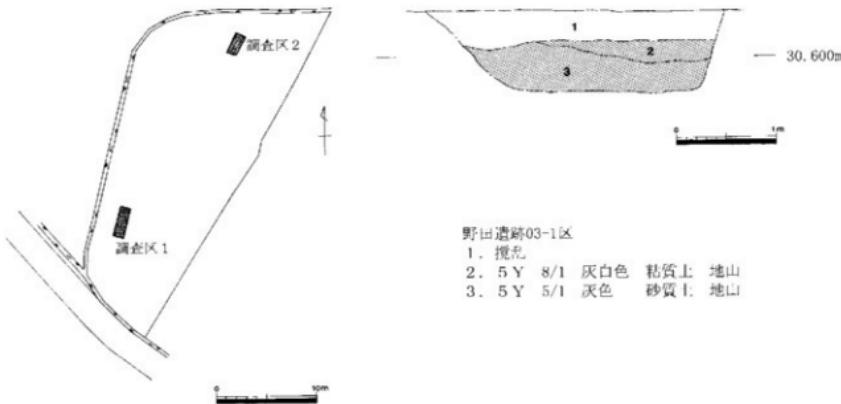
調査期間 平成15年4月3日

### 位置と環境

調査地点は野田遺跡西南端に位置し、前記の同遺跡02-11区の南100mほどにある。02-11区から南方向へ向かう緩傾斜面上にある。周辺では5件程の調査例があり、遺構は検出されていないものの、中世期の包含層と遺物は検出されている。また調査地点の西150mで平成15年度に公園造成計画に伴って調査実施した野田遺跡03-9区では奈良時代の溝と須恵器などの遺物が検出されているので、付近一帯は古代からの遺跡が存在しているものと思われる。

### 調査内容

調査は機械掘削によって実施した。GL下-0.3mに既に削平を受けた地山面があった。包含層を含めたその他の層も無く、過去の造成によって過去に存在した全ての層が削り取られていることがわかった。



### 小 結

遺構・遺物とも検出しなかった。以前の開発で包含層ごと削平されたことがあったものと考えられる。申請地の全域では建物などの遺構は存在していなかったと思える。

## 第3節 野田遺跡03-2区の調査

調査地 紺屋一丁目5-19

調査期間 平成15年5月29日

#### 位置と環境

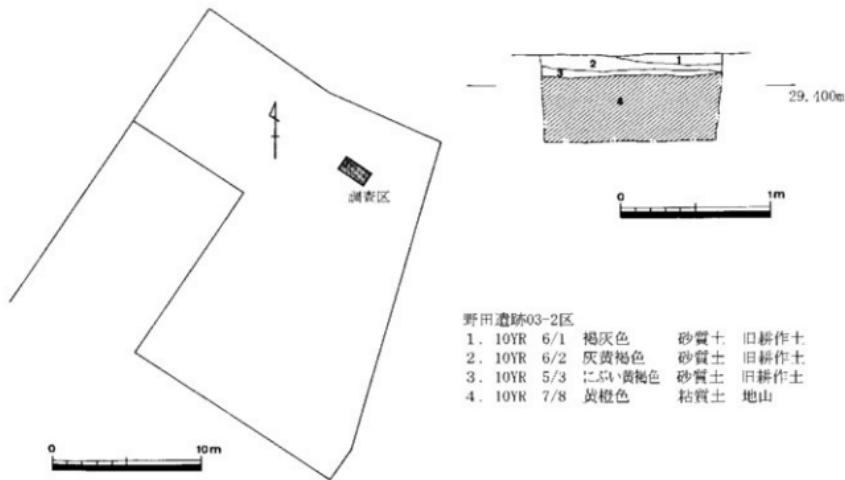
調査地点は野田遺跡の西端、紺屋集落の東部区城にあり、ほぼ口無池遺跡に接している。熊取町役場からは西に500mほどの距離がある。周辺ではこれまで3件ほどの調査例があり、1箇所で中世包含層の検出があったが、遺構の検出はない。

#### 調査内容

工事は個人住宅内の別棟新築工事で、確認調査を実施したところ、GL下-0.15m付近で黄褐色粘質土の地山④が確認された。他④の直上に中世頃の層②③が存在することもわかったが、遺物は一切検出しなかった。②③とも耕作に関わる所産と考えられる。

#### 小 結

申請地付近は地山まで達する搅乱を免れていることが判明したことが成果である。しかし中世以前の埋蔵文化財を含むような包含層は発見できなかった。



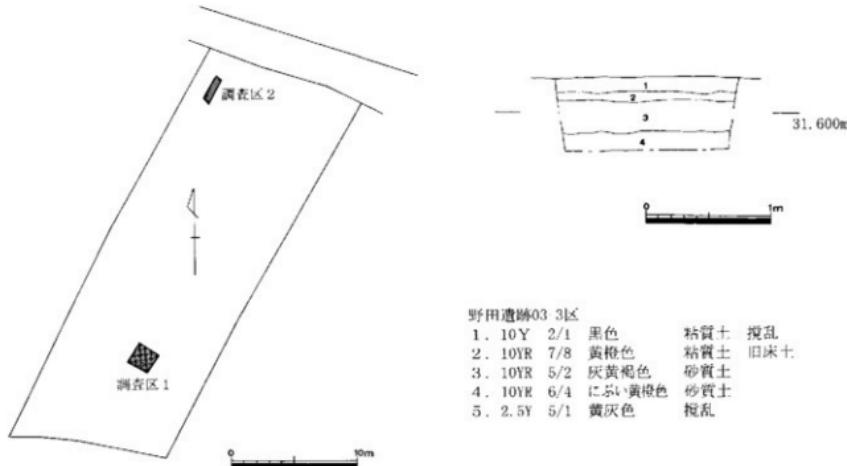
#### 第4節 野田遺跡03-3区の調査

調査地 紺屋1丁目195

調査期間 平成15年6月24日

#### 位置と環境

調査地点は野田遺跡の西部にあって、大阪外環状線の直南に位置している。野田遺跡は外環状線を挟んで北部丘陵地域から南に向かって徐々に下る傾向にある。調査地点のある付近は野田集落と紺屋集落の間にあるため宅地化を逃れた水田が広がっている。付近では3件程の調査例があり、中世包含層を検出しているが、集落跡等の遺構はいまだ検出されていない。



### 調査内容

機械掘削の結果、中世の層③が存在することがわかったが、耕作にかかる所産という所見は持ったものの、③層は包含層とは認め難い。またその下の④層は地山ではない。①②は現代の耕作土である。個人住宅の建設に伴う確認調査のためにGL下-0.6m以下は掘削せずに調査を終了した。

### 小 結

周辺での調査結果同様、中世の層が残存することが確認できた。この付近では遺構が確認された例が無く、野田集落の西部地域における今後の課題としたい。

### 第5節 野田遺跡03-7区の調査

調査地 野田2丁目2373

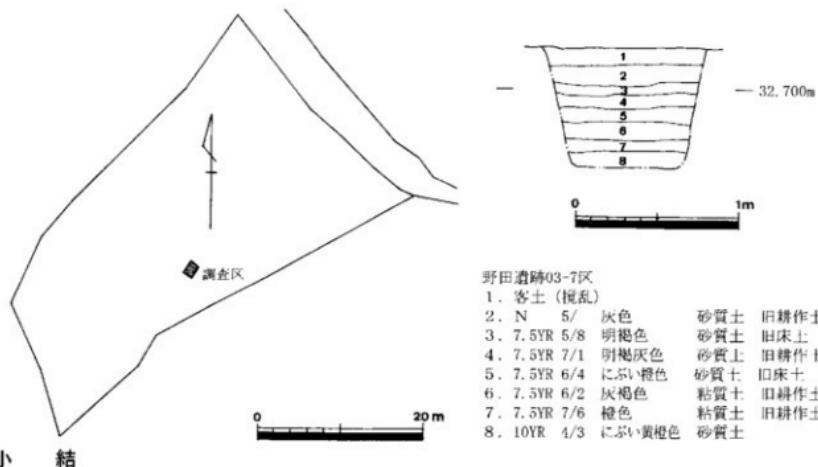
調査期間 平成15年9月18日

#### 位置と環境

調査地点は野田遺跡の西南端にあり、先記した同遺跡03-1区からは僅か50m程しか離れていない。調査地点の南側には住吉川が西へ向けて流れしており、河岸に対して緩斜面になっている。周辺では中世包含層が存在することが確認されているが、遺構の検出例は無い。

#### 調査内容

調査は機械掘削によって実施した。GL下-0.3mまでは近年迄に営まれた旧耕作土①②③が存在している。以下さらにGL下-0.8m掘削すると中世の層が5層④⑤⑥⑦⑧確認された。この5層はいずれも中世の耕作に関わる所産と考えられる。



## 小結

調査区域ではGL下-0.3m以下に中世層が存在することが確認できたが、02-11区同様遺物の包含は確認しなかった。また今回申請の工事が既設建物への増築という事情を考慮して、確認調査以上の調査を施さないこととした。

## 七山東遺跡について

七山東遺跡は平成11年7月に民間の開発に伴う試掘調査により発見され、99-1区の調査として本格的発掘調査が行われた。この際第IV期-2段階：平城京III（8世紀第3四半期）からIV期-3段階：平城京IV（8世紀第4四半期）の須恵器と土師器を含む包含層、及び室町時代以降の瓦器を包含層が検出されたので、本遺跡は奈良時代と中世の遺跡ということができる。

## 第6節 七山東遺跡02-2区の調査

**調査地** 自由が丘2丁目23-11

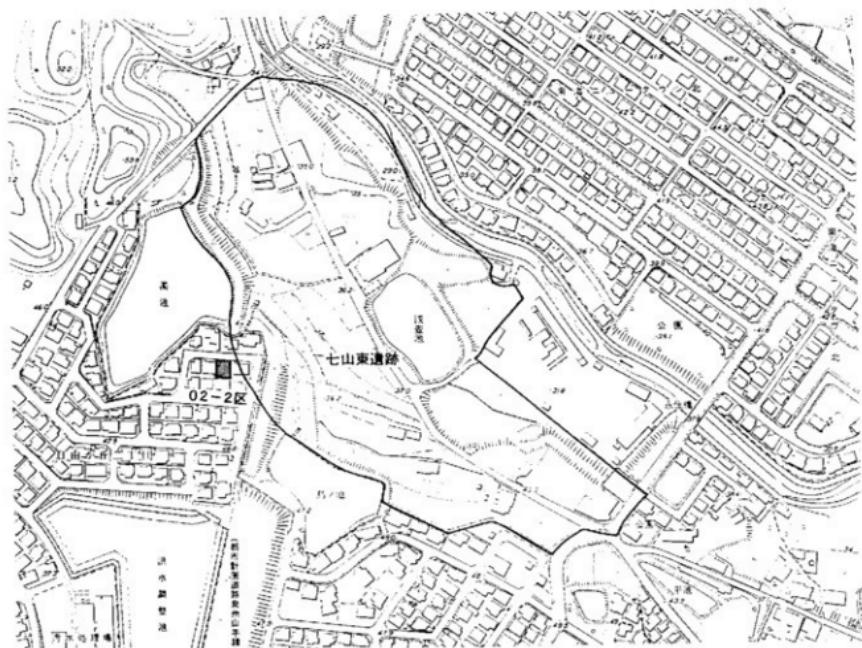
**調査期間** 平成15年2月24日

**位置と環境**

調査地点は七山東遺跡00-1区のすぐ西側の住宅地である。00-1区に比べると比高が高くなっている。

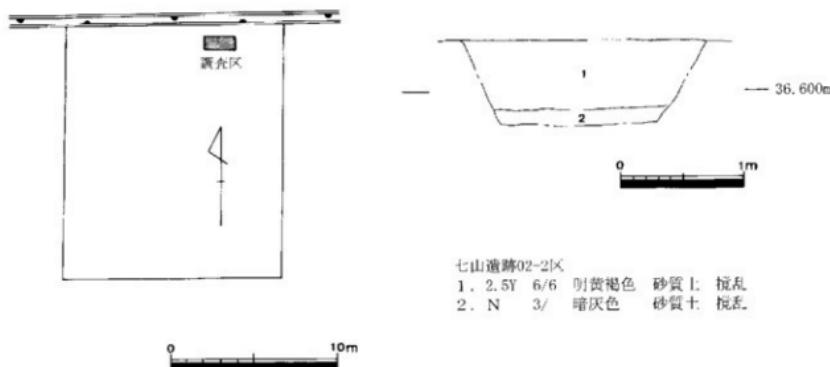
**調査内容**

機械掘削による調査を実施した。GL下-0.7m撤削してみたが、地山が露出する傾向が全く見られず、過去に当地点を含む広い範囲における住宅地開発の際の大幅な造成盛土が観察されるのみである。



## 小 結

調査地点は住宅街地の端部に位置するため、丘陵に盛土を加える造成を行った傾向が観取される。遺構や遺物が発見されるには大幅に掘削しなければならないだろう。



## 降井家屋敷跡について

降井家屋敷跡は熊取町の西端大久保地区の中央東側に所在する。この遺跡は重要文化財降井家書院のある降井家周辺に展開し、かつての降井家の広大な屋敷地を示す遺跡である。明確ではないものの、降井氏は古代から熊取地域の一族であり、16世紀から17世紀にかけて大幅に土地を集積したものと考えられる。昭和60～61年度に現在の降井家の北西側で小規模の調査を実施し、江戸後期の多量の陶磁器と同家の屋敷地の区画溝を検出している。



### 第7節 降井家屋敷跡02-1区の調査

調査地 大久保中2丁目4

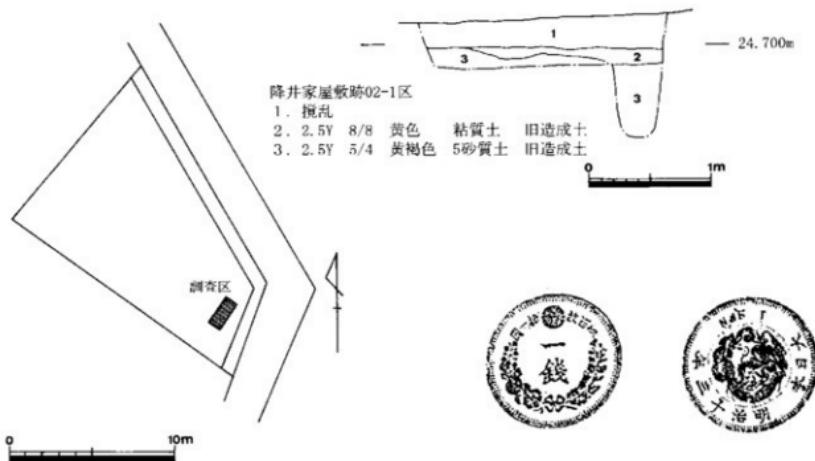
調査期間 平成15年3月17日

#### 位置と環境

調査地点は重要文化財降井家書院のすぐ北側30m程である。降井家の屋敷地を構成する生活面からは2～3m低くなっている。さらに北を流れる住吉川に向かって徐々に低くなる傾斜が観察できる。これまで周辺では2件の調査例があり、近世の陶磁器片や瓦片を検出しているものの、遺構は確認されていない。

#### 調査内容

GL下-0.3mまでは搅乱されている。③には瓦片が存在するが、同時に比較的旧式な薬用もしくは化粧品用途のがく瓶と考えられる遺物等を含んでいるため、③層は近代以降の所産と考えられる。



## 小 結

今回の降井家の北西の住吉川に向かって下り傾斜する場所の調査では、降井家に直接繋がるような成果が見られなかった。調査で出土した瓦類は近代以降の所産である。出土したコインは明治13年の「一銭銅貨」である。

### 第8節 降井家屋敷跡03-1区の調査

**調査地** 大久保中2丁目2155-1

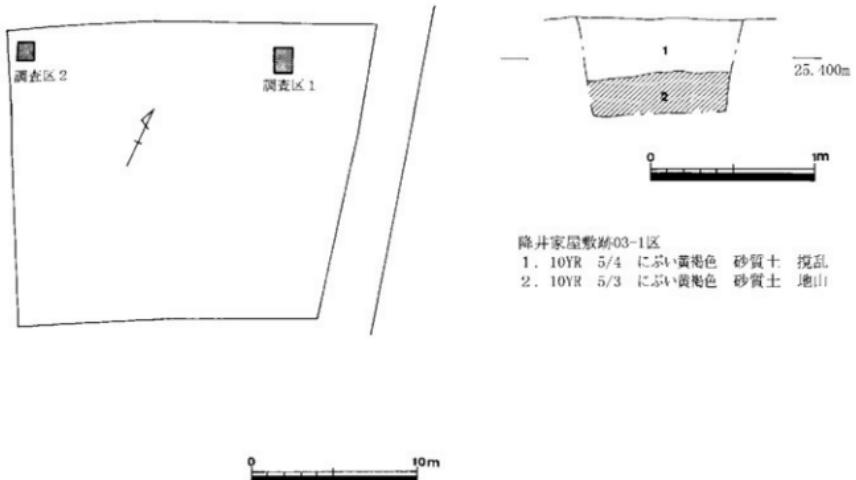
**調査期間** 平成15年5月14日

#### 位置と環境

調査地点は重要文化財降井家書院のすぐ北側10m以内に接している。前記の降井家屋敷跡02-1区と同様降井家の屋敷地を構成する生活面からは2m程低くなっている。宝暦年間の屋敷地の状態を示す屋敷図によると、調査地点には従来から施設が設置されなかった場所だったようで、住吉川に向かう土手と田が描かれている。

#### 調査内容

調査区2は、地山②と擾乱①による2層のみが検出された。江戸時代に降井家屋敷地造成の際に削平されたものか、近現代に入って宅地として造成が施されたものはわからなかった。



## 小 結

降井家書院の裏側に面することで成果が期待されたが、削平による搅乱が激しく想像されたような成果は得られなかった。また近世遺物が非常に乏しかったことから、おそらく近現代に入って現況のとおりの宅地として削平し造成したものと思われる。

## 久保城跡について

久保城跡は熊取町の中央部よりやや南東の熊取町久保に所在し、小字に「矢の倉」「的場」などが残されているため、中世の城館跡と考えられている遺跡であるが、これまでの発掘調査で城郭関連の遺構は一切発見されていない。平成10年8月には調査地点から160m程北西の町立東学童保育所の建設に伴う発掘調査(久保城跡98-1区)で、僅か77m<sup>2</sup>の調査区域から飛鳥期～奈良時代中期の上師器及び須恵器を多量に含む3本の溝が検出されている。

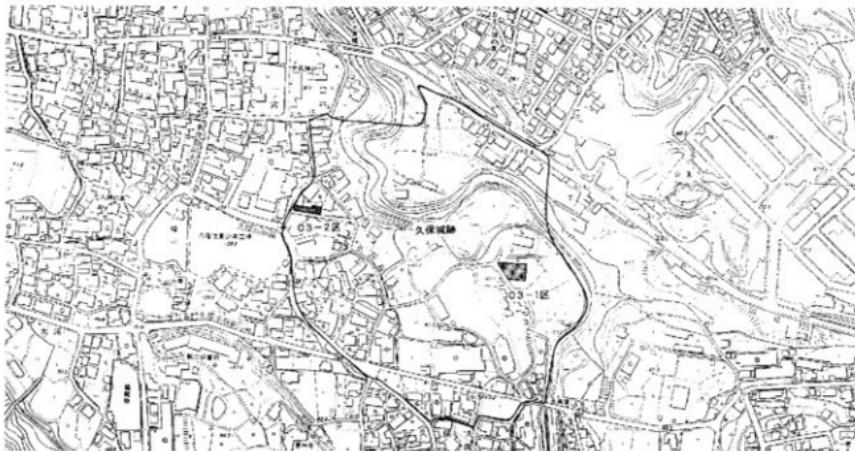
## 第9節 久保城跡03-1区の調査

**調査地** 久保1丁目1605-1

**調査期間** 平成15年4月14日

**位置と環境**

調査地点は久保城跡の中央やや東、見出川左岸の田園地帯にある。この一帯は土地利用による起伏が激しく、現在の状況から過去の自然景観をそのまま想像することは的確でな



いと判断するべきであるが、見出川という河川に向かって全体的に土地が高くなっていく傾向が観察できるので、この見出川の左岸域はかつて造成等が施されて盛り上げられた可能性も考えられる。調査地点周辺では過去に4件の調査が実施され、このうち今回の調査地点の20m西向かいにおける平成7年度の個人住宅の調査では掘立柱建物及び溝が検出されている。

#### 調査内容

調査は機械掘削によって実施した。GL.-0.5m程で黄褐色粘質土の地山④に達する。直上には近現代の耕作土①②③が3層存在するが、他に中世以前の層は存在していない。また地山面上に数基のピット状遺構を検出したが、調査の結果建物等の構造物を形成したものではなく、植物・樹木の根もしくは、耕作に関する所産と考えられる。



## 小 結

調査区1では平面図のようにピットが3基検出できたが、中世以前の建物柱跡などの所産ではなく、耕作もしくは植木に関する所産と考えられる。申請地は過去に造成などで大きく削平を受けているので近世以前の層は一切存在しない。

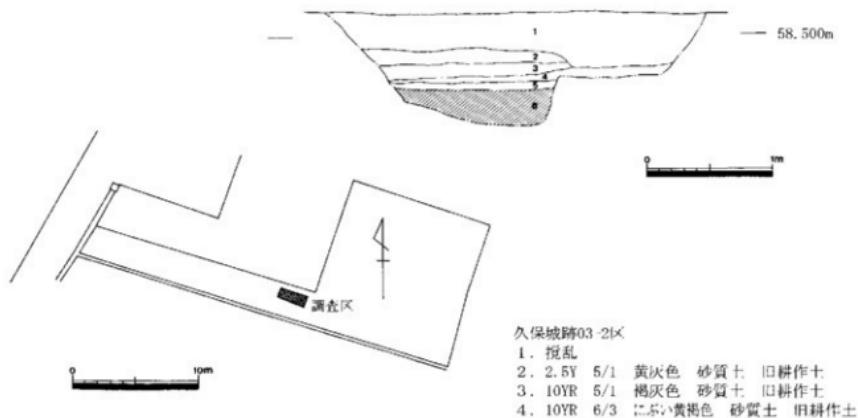
## 第10節 久保城跡03-2区の調査

調査地 大宮1丁目1567-3他2箇

調査期間 平成15年9月17日

### 位置と環境

調査地点は久保城跡中央部西端に位置している。旧八幡池のあった八幡池青少年広場から35mほど北東に入った場所で、久保城跡で遺構群の検出が集中している久保城跡98-1区の調査地点からは北西へ50m程の距離である。ごく周辺地域では1件の調査例(久保城跡99-1区)があるが、この時には埋蔵文化財は一切検出されず、削平を受けた地山のみが検出されている。

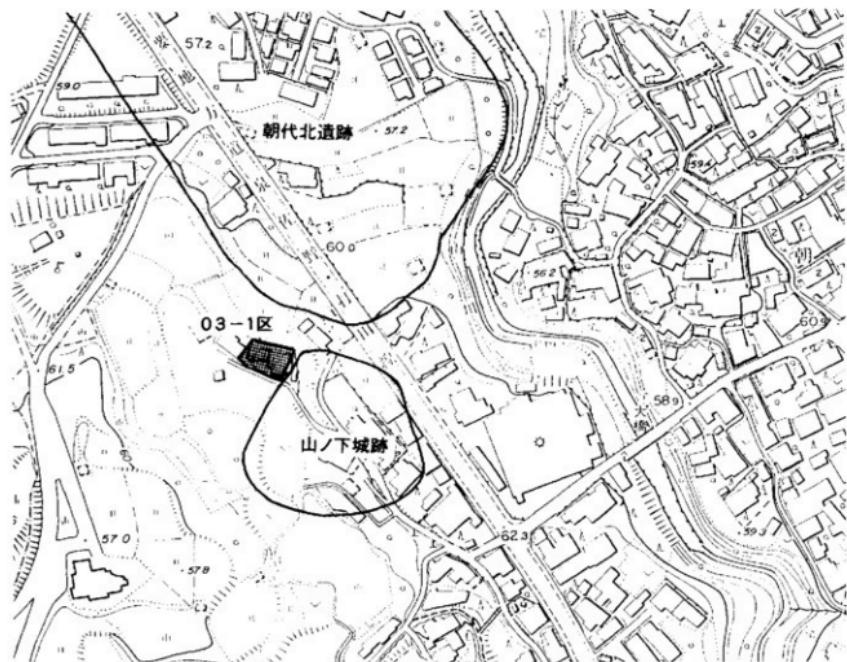


### 調査内容

GL下-0.3～-0.5mは近年の工場開発によって大きく搅乱されている。-0.5m以下には中世後半以降の層②③④⑤⑥が存在する。

## 小 結

申請地付近は比較的遺構を伴う調査地点が分布しているため、注意が必要である。今回の調査地点も中世の所産と考えられる層が観察できたが、遺物を含む傾向が無かった。また調査地点に限っては過去の工場の建設工事によって大きく層が破壊されていることが判明した。



### 山ノ下城跡について

山ノ下城跡は熊取町の中央部西寄りにあり、主要地方道泉佐野打田線の京都大学原子炉実験所を和歌山側に下ったすぐ西側低丘陵上に想定されている城館跡遺跡である。しかしながらこれまでこの遺跡内では発掘調査は一度も実施された経緯が無く、城郭関連の遺構の形跡は発見できていない。またかつてこの場所では須恵器の破片が表面採取されている。

#### 第11節 山ノ下城跡03-1区の調査

**調査地** 朝代西3丁目755の一部他3筆

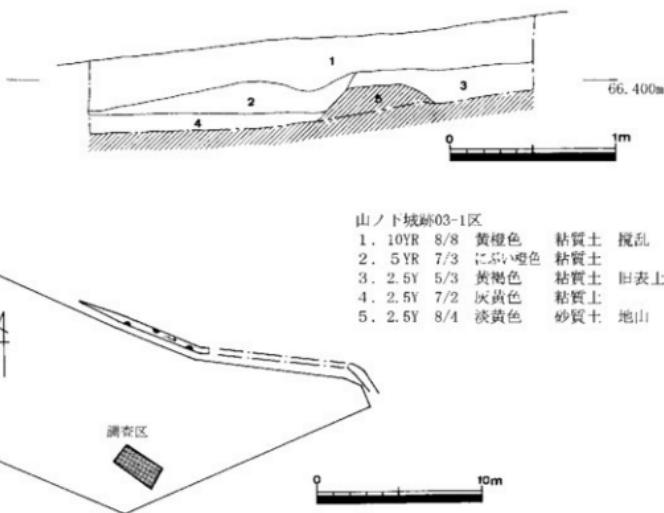
**調査期間** 平成15年7月24日

#### 位置と環境

調査地点は遺跡の範囲の北西端部に位置する個人住宅地である。調査地点付近は泉佐野市との境界付近一帯に拡大する丘陵の裾部に相当し、東側の雨山川に向けて緩傾斜している状況である。近年すぐ北側一帯は原子炉実験所関連施設となつたが、周辺は從来微高地を巧みに利用したい農地が多い場所であり、現在は徐々に住宅地化している。平成12年度に調査地点の20m北東の朝代北遺跡の範囲内で個人住宅の建設に伴つて確認調査を実施したが削平された旧地形が覗られるのみだった。

## 調査内容

機械掘削による調査を実施した。GL下-0.2m程で削平を受けた黄褐色粘質土の地山⑤を検出できるが、その上の4層①②③④はいずれも激しい搅乱を示すものであり、過去に住宅建設のために大きく造成されたことを示すものである。



## 小 結

山ノ下城跡における初めての調査であるにも拘わらず、残念ながら埋蔵文化財は一切検出できなかった。城郭は勿論のこと中世の包含層の類もその痕跡すら見出せなかった。

## 口無池遺跡について

口無池遺跡は熊取町の北西部に位置している。JR熊取町駅と熊取町役場の所在する野田とを結ぶ中間地帯にあたり、大阪外環状線から100m程南に入った紺屋集落が遺跡の範囲となっている。昭和62年度の町道紺屋大久保線の拡幅工事の立会で中世包含層が確認されて以来調査例は無い。平成7年度の下水道工事の立会では中世包含層が検出されている。

### 第12節 口無池遺跡03-1区の調査

調査地 紺屋1丁目159-2

調査期間 平成15年8月26日

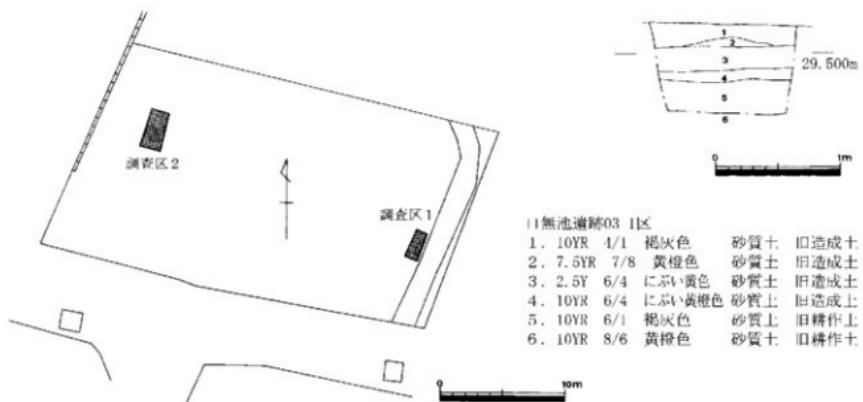
位置と環境

調査地点は遺跡の東端で野田遺跡に接する紺屋の住宅地内である。付近は一様に平坦な土地が広がっており、特殊な所見はない。



### 調査内容

調査区を2箇所設定して機械掘削による調査を実施した。GLより-0.4mまでは近年の造成工事で搅乱されている①～④が、以下は非常に良好な状態で保たれている。⑤は中世の層と考えられるが、埋蔵文化財は検出されない。



### 小 結

平成8年度に下水道工事に伴う簡易本調査を実施した際には中世の溝と遺物を検出した。今回の調査ではその時の中世包含層に繋がる残存層を検出できたものと思っている。

## 第4章 まとめ

以上、野田遺跡、七山東遺跡、降井家屋敷跡、久保城跡、山ノ下遺跡、口無池遺跡における12件の国庫補助事業に伴う発掘調査成果を報告した。

### 野田遺跡

野田遺跡では確認調査を5件実施した。このうち02-11区、03-2区、03-7区の調査では中世の層を検出したが、今年の個人住宅の確認調査では建物などの遺構は検出できなかった。

### 七山東遺跡

今回の七山東遺跡の調査地点は、大規模開発された自山が丘住宅地の中にあったため、造成による削平が激しく成果はなかった。

### 降井家屋敷跡

重要文化財降井家書院の北側の2件の調査地点を報告した。住吉川に向かう下り斜面の川縁に位置しており、江戸時代の同家の古図には施設は描かれていない。調査の結果江戸時代以降の陶磁器や瓦破片が検出されたものの、遺構に繋がるような所見は無い。川岸の急斜面という性格上、從来から開発の対象になりにくい地域だったことが想像できる。採取された遺物は江戸時代以降の降井家の廃棄物だった可能性が高い。近代以降の遺物も見られたが、降井家周辺には現在多くの住宅が建てられており、近代に入って降井家書院北部地帯が一般に開発された際の所産であると考えられる。

### 久保城跡

03-1区、03-2区とも遺構・遺物は一切検出されなかった。また久保城跡の範囲内に見られる中世包含層も検出されなかった。この遺跡の範囲内における城郭跡に関する遺構については現在のところ全く未確認のままであり、平成10年度の調査で検出された遺構は奈良時代を中心とした古代の所産である。また包含層に含まれる遺物に関しては13~14世紀代の瓦器を中心とするものであり、中世城郭に結びつけるのは難しい。

### 口無池遺跡

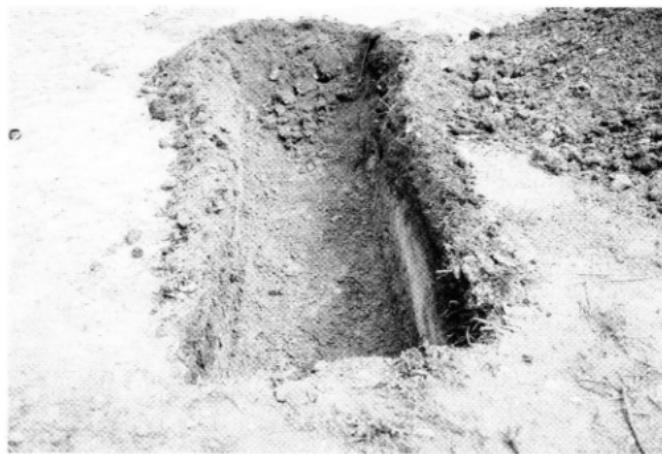
紺屋集落の地下に広がる中世層の一端を垣間見た。今回の調査では遺物は出土しなかつたが、平成8年度の調査で出土した遺構と遺物の内容は野田遺跡とほぼ同様であると言える内容であった。



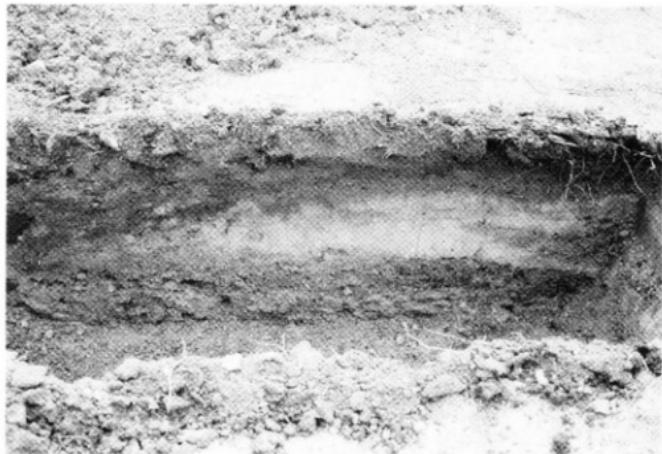
野田遺跡02-11区 調査区 1



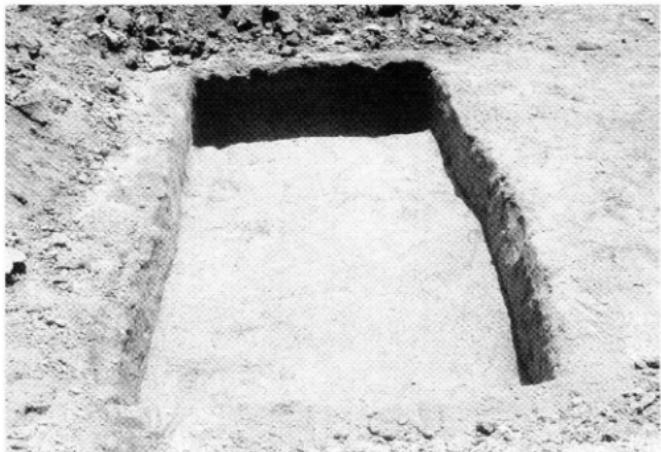
野田遺跡02-11区 調査区 2 壁面



野田遺跡03-1区 調査区



野田遺跡03-1区 調査区壁面



野田遺跡03-2区 調査区



野田遺跡03-2区 調査区壁面



野田遺跡03-3区 調査区1



野田遺跡03-3区 調査区2



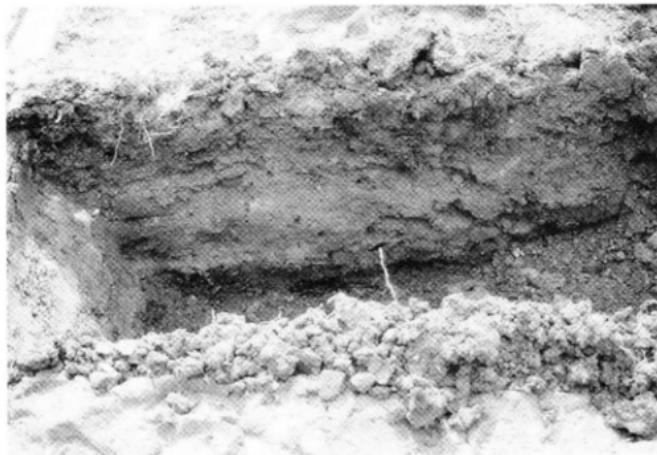
野田遺跡03-7区 調査区



野田遺跡03-7区 調査区壁面



七山東遺跡02-2区 調査区



七山東遺跡02-2区 調査区壁面



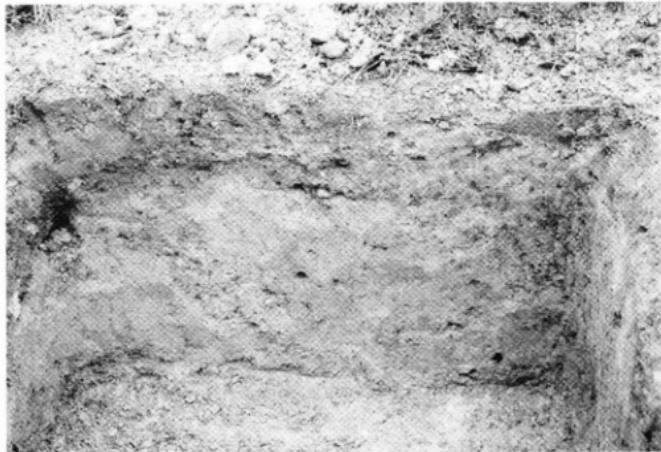
降井家屋敷跡02-1区 調査区



降井家屋敷跡02-1区 調査区壁面



降井家屋敷跡03-1区 調査区



降井家屋敷跡03-1区 調査区壁面



久保城跡03-1区 調査区



久保城跡03-1区 調査区壁面



久保城跡03-2区 調査区



久保城跡03-2区 調査区壁面



山ノ下城跡03-1区 調査区



山ノ下城跡03-1区 調査区壁面



口無池遺跡03-1区 調査区1



口無池遺跡03-1区 調査区2

# 報告書抄録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはくつちょうさがいようほうこくしょ							
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書							
卷次	XVII							
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第44集							
編著者名	前川淳							
編集機関	熊取町教育委員会							
所在地	〒590-0495 大阪府泉南郡熊取町野山一丁目1番1号							
発行年月日	西暦2004年3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村・遺跡番号	北緯 。度、分、秒	東経 。度、分、秒	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	
のとせま 野山遺跡 02-11区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町野山	27361	44	34° 23' 53"	135° 21' 19"	20030130	10.0	個人専用 住宅建設
のとせま 野山遺跡 03-1区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町野山	27361	44	34° 23' 50"	135° 21' 15"	20030403	4.0	個人専用 住宅建設
のとせま 野山遺跡 03-2区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町粗屋	27361	44	34° 23' 56"	135° 21' 7"	20030529	3.0	個人専用 住宅建設
のとせま 野山遺跡 03-3区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町細屋	27361	44	34° 23' 57"	135° 21' 12"	20030624	6.0	個人専用 住宅建設
のとせま 野山遺跡 03-7区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町野山	27361	44	34° 23' 49"	135° 21' 17"	20030918	2.0	個人専用 住宅建設
しちやまじがいせき 七山東遺跡 02-2区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町自由が丘	27361	41	34° 24' 22"	135° 21' 39"	20030224	16.0	個人専用 住宅建設
くわせまわせ 久保城跡 03-1区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町大宮	27361	15	34° 23' 33"	135° 22' 35"	20030414	2.0	個人専用 住宅建設
くぼくわあと 久保城跡 03-2区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町久保	27361	15	34° 23' 35"	135° 22' 16"	20030917	4.0	個人専用 住宅建設
ふりかわさあと 降井家屋敷跡 02-1区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町久保	27361	25	34° 23' 56"	135° 20' 50"	20030317	4.0	個人専用 住宅建設
ふりかわさあと 降井家屋敷跡 03-1区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町久保	27361	25	34° 23' 55"	135° 20' 55"	20030514	4.0	個人専用 住宅建設
やまとしたじまわ 山ノ城跡 03-1区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町朝代西	27361	16	34° 22' 57"	135° 21' 16"	20030724	4.5	個人専用 住宅建設
くわなしにいせき 口無池遺跡 03-1区	大阪府泉南郡 くまとりちょういせき 熊取町粗屋	27361	33	34° 23' 59"	135° 21' 06"	20030826	4.0	個人専用 住宅建設
所収遺跡	種別	遺跡の主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
野田遺跡02-11区	集落跡	縄文～江戸時代	なし	なし	層：鎌倉～室町時代			
野田遺跡03-1区	集落跡	縄文～江戸時代	なし	なし	層：鎌倉～室町時代			
野田遺跡03-2区	集落跡	縄文～江戸時代	なし	なし	層：鎌倉～室町時代			
野田遺跡03-3区	集落跡	縄文～江戸時代	なし	なし	層：鎌倉～室町時代			
野田遺跡03-7区	集落跡	縄文～江戸時代	なし	なし	層：鎌倉～室町時代			
七山東遺跡02-2区	散布地	奈良～室町時代	なし	なし	一切なし			
久保城跡03-1区	城館跡	鎌倉時代	なし	なし				
久保城跡03-2区	城館跡	鎌倉時代	なし	なし	層：鎌倉～室町時代			
降井家屋敷跡02-1区	屋敷跡	室町～江戸時代	なし	なし	一切なし			
降井家屋敷跡03-1区	屋敷跡	室町～江戸時代	なし	なし	層：江戸～昭和時代			
山ノ下城跡03-1区	城郭跡	鎌倉	なし	なし	一切なし			
口無池遺跡03-1区	散布地	室町～江戸時代	なし	なし	層：鎌倉～室町時代			

熊取町埋蔵文化財調査報告 第44集  
熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XVII

発行日 平成16年3月

発行・編集 熊取町教育委員会  
大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号

印刷 (有)山村印刷所  
大阪府貝塚市近木1483-8